

# 第4回手賀沼部会の意見要旨



番号	意見の分類	意見要旨	事務局見解
No.1	環境 / 川づくり	<p>多自然型川づくりにあたっては、なるべく連続性を持ってやっていくのが大事。川の部分部分を多自然型で改修しても、あまり効果がない。</p> <p>また、具体的にどいう魚がいて、どの魚を対象にするのかきちんと想定して進めていくと、さらにいいものができると思う。</p> <p>(梶山委員)</p>	<p>大津川の多自然型川づくり懇談会において、全体構想も含め検討しておりますが、全ての整備が完了するには時間がかかりますので、当面、スポット的な整備を実施しています。</p> <p>このようなか中で、今後ともご意見を伺いながら、整備を進めていきたいと考えています。</p>
No.2	環境 / 川づくり	<p>整備にあたっては、将来的に水がきれいになることも想定して、できれば1歩でも2歩でも水の中に入れるような構造というのを考えて頂きたい。</p> <p>(梶山委員)</p>	
No.3	環境 / 川づくり	<p>多自然型川づくりを進めていく上で、5年後、10年後あるいは20年後というように期間を区切って、何年経ったらこの河川には、鳥でいえばこういう鳥が繁殖できるとか、暮らせる環境を取り戻そうというような目標生物をぜひ設定してほしいと思います。</p> <p>また、手賀沼流域の中には、まだ残念なことに鉄砲を撃てるような場所もありますし、これは子どもたちの危害の問題も含めて検討できる課題が市町村毎にあるのであればぜひ検討していただきたい。</p> <p>(杉森委員)</p>	<p>ご指摘のとおり、わかりやすい指標としての目標生物の設定は必要であると考えます。</p> <p>今後は、具体的なご意見を頂きながら、検討していきたい思います。</p>
No.4	環境 / 川づくり	<p>植生の目標を立てて、どういふふうに変化していくかをモニタリング調査を行うことにより、多自然型川づくりがきちんと多自然という方向に向かっていているかのチェックができると思うので、そういう手法をぜひ取りいれたい。</p> <p>(恵良委員)</p>	

番号	意見の分類	意見要旨	事務局見解
No.5	環境 / 川づくり	<p>子どもの自然体験は非常に大事だと考えており、そうした中で子どもの水辺ができてすぐいいなと思っただけですが、普通、学校では川は危険だから遊びに行くと指導していることがよくあるのですが、子どもの水辺には大いに行っているのもいいということになっているのか。 (中村委員)</p>	<p>河川管理者側から、特に危険な場所を除いては、立ち入り禁止などの措置は行っていませんが、積極的な利用推進を図っているわけではありません。なお、最近では、子供たちの体験活動の場を拡大し、また、「川に学ぶ」体験を推奨する観点から、教育部局、河川部局、環境部局及び市民団体等が連携して「子供の水辺」の選定、登録及び必要に応じ整備を行い、子供たちの河川利用を促進し、子供たちの体験活動の充実を図るという制度があり、県内では小野川1箇所、栗山川2箇所、3箇所の3箇所が現在までに登録されています。今後はこのような事例を参考にしながら、その水辺環境の活用に向けてまいります。</p>
No.6	環境 / 環境情報図	<p>生き物がたくさん暮らせる川づくりを行っていく上で、川だけで考えていてもこれは完結するものではなく、川に隣接した水田も含めた形で考えていかないと、生き物が暮らせる環境をつくっていくことはとても難しいと思う。少なくとも水田関係の生き物が暮らせるような情報、例えば冬に乾田化しない水田があるのであれば、そのような情報も記載して頂きたい。 (杉森委員)</p>	<p>川の周辺情報についてもスポット的には記載できると思いますが、しかし、広域的に流域全体に調査を広げるとするのは困難ですので、今後はある程度特筆すべきところについては情報をお寄せいただければ記載させていただきます。隣接する水田との調整についても、例えば、農林水路と河川の接続部分の段差を極力なくす等の取り組みについては河川ごとに行っていますので、今後も引き続き検討していきます。</p>
No.7	環境 / 市民活動	<p>大堀川で毎年、夏に子ども達による魚類の調査、春に水際の大掃除をしているので、今後は、県と交流を図り一緒に行っていきたい。 (寺尾委員)</p>	<p>市民活動の状況や河川の利用状況などを踏まえて、情報交換や活動の連携がとれるようお互い調整させて頂きたいと思えます。</p>
No.8	その他 / ハザードマップ	<p>ハザードマップの作成にあたっては、利根川本川と手賀沼流域の浸水想定区域を重ね合わせた形で市町村が作成されるよう、今後、県と調整したい。 (小林顧問)</p>	<p>利根川本川の浸水想定区域が手賀沼流域のものより広範囲に及ぶということがわかっていきます。なお、我孫子市では現在、利根川本川に係るハザードマップを作成中であると伺っております。</p>